AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

ナースマネジャー（2010.03）11巻12号:27～33.

こちらナースマネジャー情報局
専任の教育担当部署が行う院内教育の実践

原口眞紀子

専任の教育担当部署が行う院内教育の実践

旭川医科大学病院 看護部
教育担当師長 原口眞紀子

教育担当部署設置の経緯

医療の高度化・医療技術の進歩に対応し，看護の質を確保するためには，看護職員の質の向上と教育体制の充実が重要である。また，7対1看護配置に伴い，新人看護師の就職数が増加し，各ナースステーションでは，新人を指導する先輩看護師の負担が増大した。このような状況を受けて，当院では次のことを目的として，2008年に教育担当部署を設置した。

【目的】

1. **患者の個別性を尊重した，質の高い看護を主体的に実践し，提供できる看護師を育成する**
2. **集合研修と部署の看護実践が連動した指導体制を構築する**
3. **研修の評価を研究的視点で振り返り，院内教育プログラムを発展させる**

教育担当部署の体制

教育担当部署は，教育担当師長1人と看護師2人が配置されおり，教育担当副看護部長の下で教育委員会と協力し，継続教育プログラム（**図**）を実施している。

教育委員会は，教育担当副看護部長を委員長とし，4人の看護師長から構成されており，オブザーバーとして2人の教育担当看護師も参加している。また教育委員会では，当院の教育目的および8つの教育目標に沿った継続教育プログラムを検討し，研修の企画・運営を行っている。継続教育プログラムには，基礎研修，役割研修，選択研修などがある。

【教育目的】

患者の個別性を尊重した，質の高い看護を主体的に実践し，提供できる看護師を育成する

【教育目標】

1. **患者一人ひとりの心身のニーズを把握し，看護過程を基に，質の高い看護を提供できる**
2. **専門職としての知識，技術を習得し，安全・安楽な看護実践ができる**
3. **チームの一員として期待される役割を認識し，行動できる**
4. **感性，倫理性，柔軟性を高め，創造性豊かな看護を展開できる**
5. **他部門と協力し，病院運営改革と業務改善に取り組むことができる**
6. **地域社会のニーズを把握し，多面的な看護に対応できる**
7. **理論と実践を統合し，研究的な視点・姿勢で看護に取り組むことができる**

8．最善の看護を提供するために継続的に学習し，自己研鑽できる

教育担当部署の活動

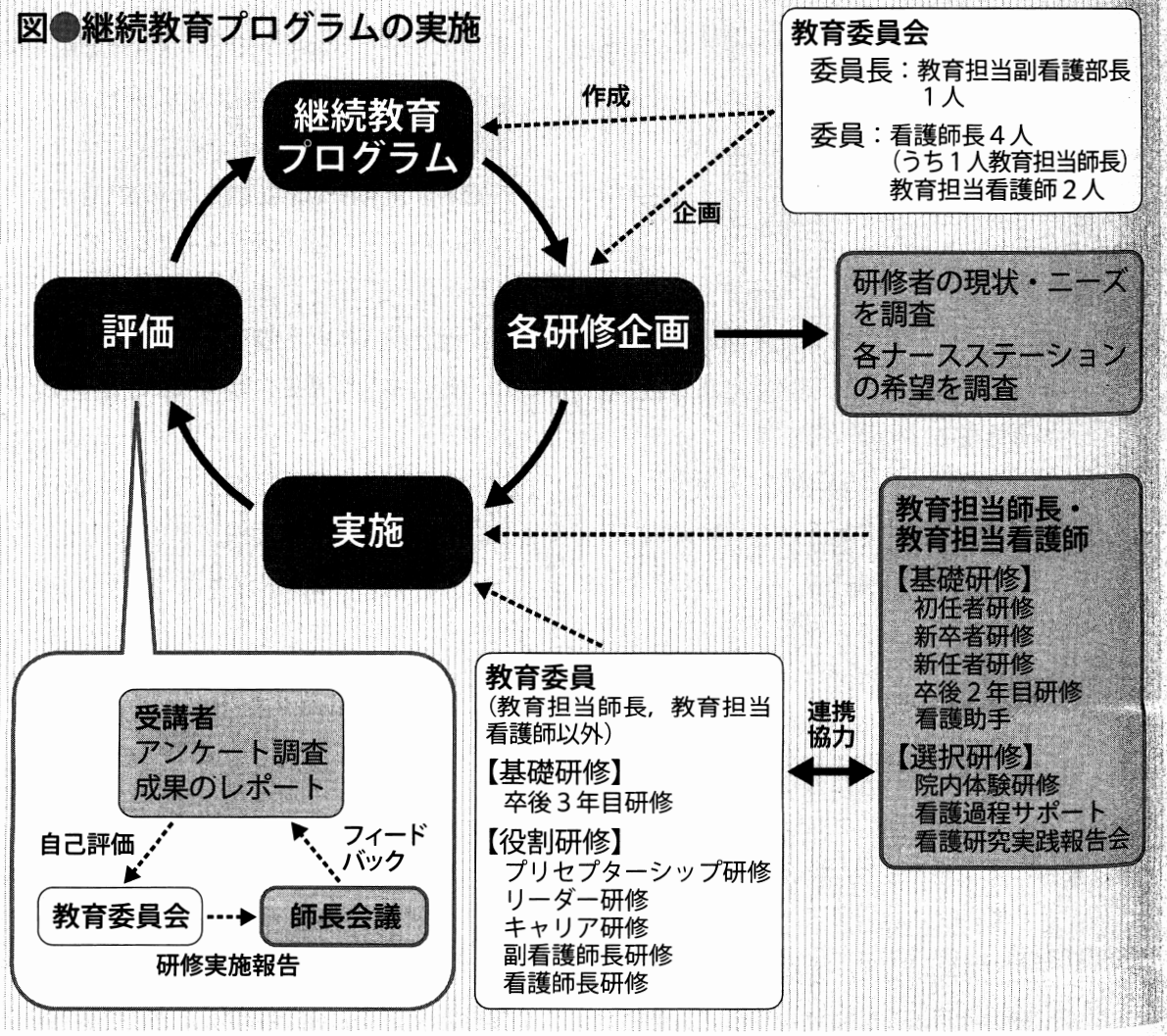
1）集合研修の企画・実施

教育担当師長と看護師は，継続教育プログラムの中で，新卒者～卒後２年目の基礎研修，看護助手研修，院内体験研修，看護過程サポートを担当している。さらに2009年度より，卒後３～４年目の看護師を対象に，新卒者看護技術研修の指導者の養成に取り組んでいる。

新人看護師の教育では，各ナースステーションで企画する研修を，現場のスタッフに代わって企画・運営している。また，各ナースステーションで強化したいテーマや優先的に習得してほしい看護技術などの研修は，希望者を募って実施している。

集合研修はOJTとの連動が重要であるため，研修内容を計画する際，研修対象者のニーズを調査し，その結果を基に研修内容を決めている。また，事前に研修の目的・目標に沿った課題を受講者に提出してもらい，研修終了後，研修成果の活用について計画・立案し，

図●継続教育プログラムの実施



その結果を2～3カ月後に提出してもらっている。

2）集合研修の評価

研修終了直後に，モチベーション，内容の理解度，実践への応用，次年度に向けての改善点（時期，時間など）を受講者にアンケート調査している。新卒者看護技術研修では，技術について3段階方式の自己評価を行い，簡単なテストで知識を確認している。これらの結果を踏まえて，今後のフォローについて教育委員会で検討し，月2回開催される師長会議で報告している。

研修終了後2～3カ月後に研修受講者より提出される研修成果から，「学習した知識やスキルが実践の場で活用されているのか」「期待した方向へと受講者が変化しているのか」を評価している。最終的には，継続教育プログラムによって期待どおり組織に貢献できたのかを明らかにし，次年度へつなげている。

3）看護技術マニュアル・指導要綱の作成と改訂

看護技術の標準化を図り，安全・安楽なケアの提供を目的に，認定看護師と協力しながら50項目の看護技術マニュアルを作成した。また，新人看護師やそのほかのスタッフを指導する際に，担当する看護師が統一した指導ができるよう指導要綱を作成した。

看護技術マニュアルと指導要綱の項目（**表**）は，『「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書』[1]を参考にしている。看護技術マニュアルと指導要綱は，現場で活用している看護師の要望や意見，安全管理部からのインシデント報告を参考にしながら毎年改訂している。

研修の実際

1）看護過程サポート研修

新人看護師を対象に入職後6カ月目に看護過程研修を実施しているが，実施後の評価で，何回か看護過程に関する研修を行ってほしいという要望が多くあった。そのため，実践力を身に付けるためにも，担当する患者の看護過程の展開をベッドサイドでサポートすることが効果的であると考え，2008年度より企画した。2008年度は3つのナースステーションで試行し，2009年度より全ナースステーションを対象に実施している。

【対象者】

新人看護師のうち希望者

【目的】

ベッドサイドにおける看護過程の展開をサポートし，患者参加型看護の実践力を高める

【目標】

1. **患者の全人的（身体的，心理的，社会的）データを収集することができる**
2. **アセスメントの結果に基づいた看護計画を，指導を受けながら立案することができる**
3. **指導を受けながら看護計画に沿った看護実践ができる**

（1）実施方法

【指導場所】

教育担当看護師がナースステーションで新人看護師の指導を行う。

【時間】

1人70分程度

【サポート内容】

「情報収集：アセスメントデータベース聴取」「アセスメント」「計画立案」「実施と評価」に

表●看護技術マニュアルと指導要綱の項目

カテゴリー	技術項目
食事の援助技術	経管栄養法
排泄援助技術	浣腸
	経尿道的膀胱留置カテーテル
活動・休息援助技術	移動・移乗・移送
清潔・衣生活援助技術	口腔ケア
呼吸・循環を整える技術	酸素療法
	気管内吸引
	口鼻腔吸引
	体位ドレナージ
	ドレーン管理
	人工呼吸器装着中のケア
与薬の技術	経口与薬
	直腸内与薬
	皮下注射
	筋肉内注射
	末梢・点滴静脈内注射
	輸液ポンプ
	シリンジポンプ
	中心静脈注射：刺入の介助・ドレッシング交換
	与薬について
	抗がん剤投与マニュアル
	血管外漏出マニュアル
	過敏症／アナフィラキシーマニュアル

カテゴリー	技術項目
救急救命処置	意識レベルの把握
	気道確保
	人工呼吸（バッグバルブマスク法）
	胸骨圧迫心臓マッサージ
	気管挿管
	除細動：自動体外式除細動器，直流除細動器
	成人のBLSアルゴリズム
	圧迫止血法
症状・生体機能管理技術	静脈血採血・検体の取扱
	動脈採血の準備と検体の取扱
	観血的動脈圧測定
	パルスオキシメーター
	心電図
	12誘導心電図
周手術期の看護技術	成人外回り看護手順
	術後の観察：全身麻酔／腰椎麻酔
	手術時手指消毒
	滅菌ガウン装着
検査などにおける援助技術	腹腔穿刺
	腰椎穿刺（ルンバール）
	骨髄穿刺（マルク）
	上部消化管内視鏡検査
	下部消化管内視鏡検査
	気管支鏡
	心臓血管カテーテル法（CAG・LVG）
	脳血管造影（DSA）
	腹部血管造影（TAE・TAI）

ついて行う。「情報収集」では，新人看護師が受け持ち患者のアセスメントデータベースを聴取する際，教育担当看護師も同席し，患者との信頼関係の築き方，話の聴き方，質問の仕方，観察の仕方について指導している。

【方法】

看護過程のサポートを希望する新人看護師は，サポートしてほしい内容を師長，副師長またはリーダーに提示し，前日の16時までに教育担当部署に連絡する。サポート後は，指導を担当した教育担当看護師が師長，副師長，プリセプター，プリセプターエイドのいずれかに指導内容を報告する。

また，サポートを受けた新人看護師も，師長，副師長，プリセプター，プリセプターエイドのいずれかに，受けた指導内容を報告する。

（2）評価

2008年度の評価では，新人看護師が希望するサポート項目で多かったのは，「情報収集」「アセスメント」であった。サポート項目に対する指導・助言内容は，集合研修で実施した内容であったため，集合研修を担当した看護師によるベッドサイドでのサポートは，知識を実践に活用する上で有効であったと考えている。

2）院内体験研修

当院では，新人看護師の教育を新卒者キャリア開発ファイル（**写真**）にまとめ，そのファイルを基に行っている。新卒者キャリア開発ファイルには，「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する報告書」に基づいた，基礎看護技術・看護過程・管理に関する共通チェックリストをとじている。このチェックリストを用いて，入職後３カ月目，６カ月目，年度末に，新人看護師がプリセプターと共に評価している。

2007年度の年度末の基礎看護技術の共通チェックリストの評価では，救急救命処置，12誘導心電図，ストーマケア，検査に関する看護技術の約７割が未経験であった。そこで，日頃経験できない看護技術と知識を学ぶために，2008年度より卒後２年目の看護師を対象に，院内体験研修を企画し，実施している。

【対象者】

卒後２年目の看護師のうち希望者

【目的】

外来，中央部門の看護を体験することで，日頃経験できない看護技術と知識を学ぶ

【目標】

1．実施前に必要なアセスメントの内容が理解できる
2．患者および家族への説明内容が理解できる
3．部署で未経験・実施できない基礎看護技術を手順どおり体験できる
4．プライバシーの保護ができる
5．安全・安楽の確保ができる
6．年齢・性別・病状を考慮する必要性を理解できる
7．記録の内容が理解できる

（1）実施方法

【研修部署】

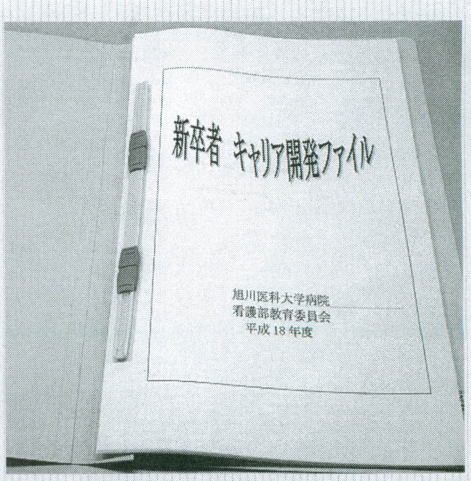
①看護外来・救急外来，②放射線部・光学医療診療部，③ICU・手術部の３コースを設定し，研修対象者が希望するコースを２つ選択する。

【研修日時】

２日間行い，どちらも８時30分～17時15分
１日で１コースを研修する

【研修内容】

看護外来・救急外来コース：外来で実施され



継続教育プログラム，新人看護師標準教育計画，共通チェックリスト（基礎看護技術・看護過程・管理），キャリアプログラムから構成されている。

写真●新卒者キャリア開発ファイル

ている検査や処置の一連の流れと看護。救急患者の搬入，救急処置と看護

放射線部・光学医療診療部コース：検査の一連の流れと看護

ICU・手術部コース：人工呼吸器装着患者の看護，ドレーンやモニター装着中の患者の看護。患者の手術室入室から退室までの流れと看護，麻酔導入から手術終了までの看護

【指導者】

教育担当師長または教育担当看護師１人と，認定看護師，各部署で決めた指導者が担当している。

【研修方法】

基礎看護技術共通チェックリストの未実施項目を中心とし，実施または見学する。研修終了後，研修者は体験した看護技術やケア項目について，基礎看護技術の共通チェックリストに自己評価し，提出する。

（2）評価

実施・見学できた看護技術は延べ39項目であり，１人当たり平均11項目，最高は18項目であった。実施・見学において体験率が高かったものは，心電図モニター，パルスオキシメーター，滅菌ガウン装着，12誘導心電図であった。

また，指導者からの助言やサポートで新たな看護の視点や看護技術を学習しており，病棟の看護との結び付き，患者および家族への説明，事前のアセスメント内容を理解することができていた。

院内体験研修では，基礎看護技術共通チェックリストで未実施項目が多かった救急救命処置，12誘導心電図，ストーマケア，検査に関する看護技術を体験する機会となっていた。今後も，この研修を継続することは有効であると考えている。

教育担当部署設置による効果

教育担当部署の設置により，次の３点の効果があったと考えている。

- **看護技術マニュアルと指導要綱を作成したことで，最新の知識や技術を新人看護師だけではなく，全看護職員に提供できた。それにより，院内の看護手順や基準を共有することができた**
- **各ナースステーションで企画していた研修を集合研修で実施・教育することで，日々の業務の中で，新人看護師を指導している先輩看護師の負担の軽減につながった**
- **集合研修を企画する上で，研修対象者のニーズや各ナースステーションの要望を取り入れ，受講者のニーズに合った研修を行えた。さらに，研修後の評価を基にフォローアップ内容を提示することや，研修内容を基に教育担当看護師がナースステーションで指導することで，徐々にではあるが，集合研修とOJTの連動体制が整備されてきた**

今後の課題とまとめ

今後の課題として，次の３点がある。

- **中堅看護師への継続教育プログラムの見直しを行い，教育委員会と連携しながらさらに充実したプログラムにする**
- **集合研修とOJTとの連携を強化する**
- **2010年４月より，新人看護師の臨床研修が努力義務化となる。これに伴い当院では，教育担当者，実地指導者が各ナースステーションに配置される予定であり，今後，これらの指導者をどのように育成し，どのよ**

うに連携しながら新人看護師の教育を行っていくか

医療の高度化・医療技術の進歩による業務の複雑化，平均在院日数短縮などによる業務量の増加の中で，看護師自身が自己研鑽することは難しい。そのような状況の中で教育担当部署は，常に現場で働く看護師が必要としている教育は何かを把握し，それらを集合研修に取り入れ，実践の場で活用できるようにすることが，重要な役割であると考えている。

また，看護師が日々の実践を振り返りながら学習できる場を提供し，教育担当部署も一緒に成長していきたいと考えている。 NM

参考文献

1）厚生労働省：「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書（平成16年6月10日）

2）厚生労働省：新人看護職員研修ガイドライン（2009年12月25日）

3）舟島なをみ：看護管理者に求められる院内教育の知識，HANS-ON，Vol.3，No.3，P.10～15，2008.

4）舟島なをみ：院内教育プログラムの立案・実施・評価―「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」の活用，医学書院，2007.

●はらぐちまきこ

1987年北海道立旭川高等看護学院助産学科卒業後，旭川医科大学附属病院に助産師として就職。2000年同施設の副師長に昇任。2001年旭川大学経済学部卒業。2003年旭川医科大学大学院医学系研究科修士課程母性看護学卒業。2008年より現職。